

周南市女性雇用マッチング事業
実態・ニーズ調査
業務実施報告書

平成30年3月

周 南 市

目次

I 調査概要	… 3 頁
II 調査結果	… 4 頁
III 調査結果のまとめ	… 15 頁
IV 取組みの方向性	… 16 頁

Ⅰ. 調査概要

1. 事業名

周南市女性雇用マッチング事業実態・ニーズ調査業務

2. 実施期間

平成 29 年 7 月 27 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日

3. 実施した業務の内容

(1) 対面方式による女性就労に関する実態・ニーズ調査

① 未就職女性を対象とした調査

9 月 26 日 (火) 新南陽ふれあいセンター 11 名

10 月 11 日 (水) 周南市文化会館 7 名

2 月 7 日(水)～9 日 (金) 子育て交流センターぞうさんの家 24 名

(計 42 名)

② 企業を対象とした調査

- ・10 月～11 月、2 月に、市内 22 事業所の協力を得て実施
- ・調査は、事前に調査票を送付の上、市担当者及び本調査業務受託事業者が訪問し、人事担当者や女性従業員等よりヒアリング

(2) アンケート方式による女性就労に関する実態・ニーズ調査

- ・9 月下旬～10 月上旬に、徳山大学の協力を得て実施
- ・アンケート用紙の配布・回収は、市内幼稚園、子育て交流センターぞうさんの家、市保健センターに依頼
- ・アンケート用紙は 1,000 枚配布し、有効回答 718 枚。

(3) 調査結果を踏まえた女性就労促進に係る今後の取組み (方向性) の整理

II. 調査結果

(1) 未就職女性を対象とした対面調査

①がんばる女性応援セミナー

ア 実施概要

	1回目	2回目
日時	平成29年9月26日(火) 10時～12時	平成29年10月11日(水) 10時～12時
会場	新南陽ふれあいセンター	文化会館
参加者数	11名	7名
託児数	5名	5名
ワークショップ テーマ	・自己紹介 ・今から3年後(2020年)の私 ・私と仕事・働くことについて ・まとめ	

・セミナー情報は市広報及び市HPに掲載したほか、集客のためのチラシを、市内幼稚園を通じて配布、各公共施設等に配置し、メール又は電話にて事前に参加申込受付

イ 調査結果概要

- ・参加者は全員が子育て中の母親
- ・小学生から0歳児まで、複数の子がいる女性が多く、第一子出産以来10年程度子育て中心の生活をしている参加者もいた
- ・今だけの子どもとの時間を大切に過ごしたい、子どもと一緒に体験がしたいと思いつつも、子どもや夫など家族以外の人と話して共感したい、自分も外に出たいと考える者が多かった

ウ セミナーの中で出された主な意見

○「仕事」「働くということ」に対する意識

- ・いずれは雇用が安定する正職員になりたいという者もいたが、当面はほぼ全員がパート勤務を希望

- ・ 時間・日程に関する条件を挙げる者が多い

- ・ 日中 3～4 時間程度の勤務がよい
- ・ 子どもが帰る夕方以降の時間は家にいたい
- ・ 夏休みなど長期休暇中に休みが取りやすい仕事がよい
- ・ 学校行事や子どもの病気などの際は休みたい
- ・ 通勤時間をかけない家の近くがよい
- ・ 時間にしばられず家でできる仕事がよい
- ・ 家庭に支障がない範囲で、ある程度のゆとりもほしい

- ・ 仕事内容に関する希望については様々

- ・ 資格を生かしたい
- ・ 新しいことにチャレンジしてみたい
- ・ 好きなことを仕事にしたい
- ・ 職場の人間関係が心配。人と関わらない仕事がよい

- 働きたい理由は金銭面と精神面の両面を挙げる者が多い

- ・ 家族旅行やレジャーなどのため金銭的な余裕がほしい
- ・ 家を建てたい
- ・ 将来の学費が不安
- ・ 働くことで人の役に立つ、感謝される
- ・ 家族以外の人に認められ満足感が得られる
- ・ ずっと家にいるよりも気分転換になる

- 現在働いていない理由

- ・ 家族（夫・両親など）との合意形成ができていない

- ・ 将来的には働いても良いが、今はまだその必要はないと言われる
- ・ 妻・嫁・娘は家にいるべきと言われる
- ・ 子育てや家事は妻の仕事とされ協力してもらえず、出ることができない

※夫又は自分の実家の近くに住んでいる人も多く、日頃子育てに協力を得ている場合もある反面、近いうちに介護が始まるかもしれない、自分が外に出ることについて反対又は好意的でない場合もあるなど、事情は様々

・ 仕事に関する情報がない

- ・ 仕事に関する情報がどこにあるか、どのように探したらよいかわからない
- ・ すぐに働きたい！とは決めていないため、ハローワークや説明会には行きづらい
- ・ 知人の口コミ情報、チラシなどで目にする求人情報は気になっている
- ・ これまでに自分が経験した職種以外にどのような職があるかわからない

・ 勤務内容・職場環境への不安

- ・ 働いていない期間が長く、仕事をきちんとなせるか不安
- ・ 会社の雰囲気や人間関係は実際に勤務してみないとわからないため心配
- ・ 子育て中も働きやすい＝女性が多い＝女性の人間関係は怖そうというイメージ
- ・ 子どもがいる自分では周囲に迷惑をかけそう

・ 子どもに関する心配

- ・ 仕事を理由とした幼稚園の預かり保育を気軽に利用しづらい
- ・ 急な発熱などの緊急時に頼れる先が近所がない
- ・ 夏休みなど長期休暇時の預け先に困る

・ 自分に関する心配

- ・ 忙しくて無理をしたら、心が折れてしまわないか心配
- ・ 気持ちの余裕がなくなり、大事な家族にあたってしまわないか心配

○今後の取組みに対する期待

・セミナーについて

今回のセミナーでは、多くの人と本音で話して共感でき、参加してよかったとの好反応が多かった。

今回のようなテーマは、皆気になっていても友人同士の通常の会話の中ではなかなか話題にしにくいことでもあるので、こうした話ができ、多くの人とつながることもできる今回のような機会があればまたぜひ参加したい、様々なことが学べるセミナーなどがあればぜひ友人も誘って参加してみたい、と今後に対する期待を述べる者が多かった。

・就職につながる様々な活動について

様々な事情から、今すぐに働きたい！とまでは決められないものの、まずは様々なことを聞き、学んでみたい、職場見学やインターンなどの機会があったら参加してみたいと、意欲的な反応が多く見られた。

②個別ヒアリング

ア 実施概要

- ・日程 平成30年2月7日(水)～9日(金)
- ・場所 市子育て交流センターぞうさんの家
- ・ヒアリング人数 24名

イ 調査結果概要

- ・ぞうさんの家の利用者のうち、了解を得られた方に対してヒアリングを実施
- ・ヒアリングを行った24名は、全員0歳～2歳までの子を持つ母親
幼稚園児など上にも子どもがいる者もいる一方で、妊娠中やこれからもっと子どもがほしいと思っている者も半数弱見られた
- ・転勤で現在は周南市に居住しているものの、数年内に再び市外に転出する見込みの者も3～4割程度いた
- ・仕事については、育休中や家業手伝いなどを行っている者が4名いた他は、現時点で積極的に働きたいと考えて動いている者はいなかった

ウ ヒアリングで出された主な結果

○仕事についてのスタンス

- ・当面は子ども中心の生活をしていきたい
- ・仕事については、今は考えていない
- ・幼稚園や小学校にあがったら短時間のパート程度は考えるかもしれない

※結婚出産前には、事務職の他、保育士、看護師、栄養士などの資格を生かした職に就いていた者が多かった。その時に様々な苦勞をした経験などから、むしろ仕事に対してネガティブなイメージを持つ者が多かった
ただ、将来的には再び働く可能性を示唆する者も多くいた

○今後の取組みについて

ウェブでの情報共有や交流会、セミナーなどについて

- ・現時点で直ちに関心が高いとは限らない
- ・但し、将来的に利用する可能性に言及する者も多い

・コミュニティサイト

情報収集手段としてはほぼ全員がスマートフォンを活用していることから、情報を届ける手段としてウェブの利便性は認められる。女性たちも、利用するメリットが明確にわかれば利用するかもしれない、とする者が半数を超えた。

・交流会

現時点ではあまり関心を示さなかった者も半数程度いたのに対し、悩みの共有や情報交換などができると積極的に興味を示す者もいた。

・セミナー

関心を示す層とそうでない層に分かれたものの、前者においては参加してみたいセミナーの具体的な内容を挙げる者もいた。

(2) 未就職女性を対象としたアンケート調査

ア 実施概要

○実施時期

- ・平成29年9月下旬～10月上旬

○配布場所

- ・市内幼稚園
年長児の保護者及びその他関心を持つ保護者に配布
- ・市子育て交流センターぞうさんの家、保健センター
利用者への声かけ、イベント時の配布・依頼により回答を回収

○実施枚数

1,000枚配布、有効回答718枚

※調査項目の検討から集計・分析まで、徳山大学の協力を受け実施

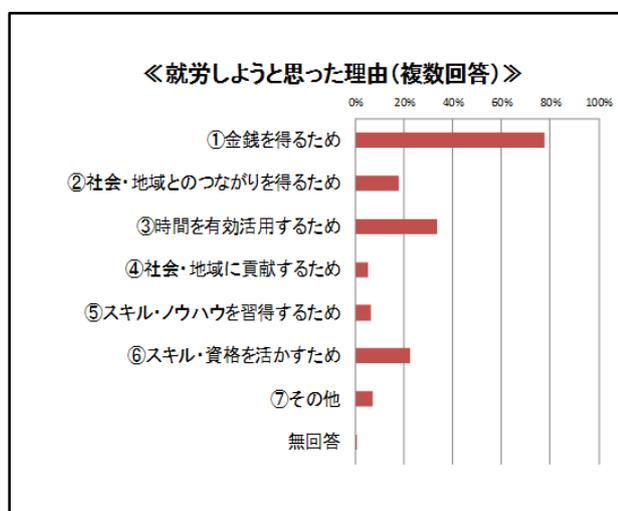
イ 調査結果概要

○就労状況について

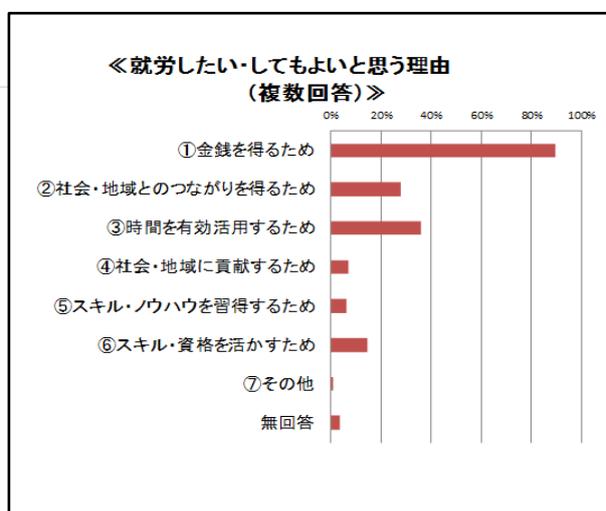
- ・現在就労している・・・45%／就労していない・・・55%

○就労したい理由については、現在の就労有無にかかわらず同じ傾向となった

就労している方

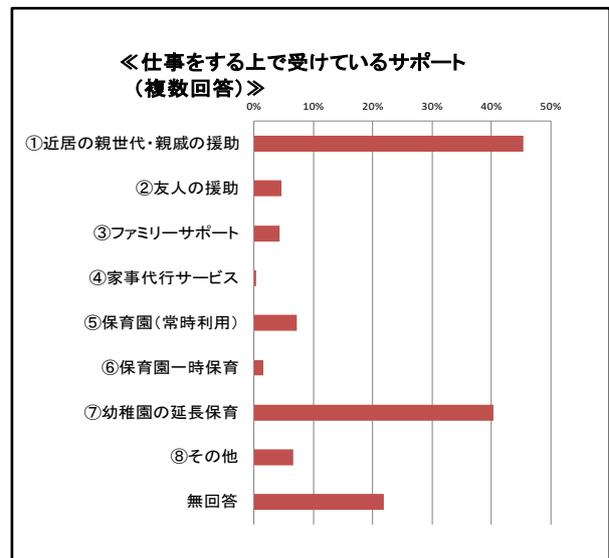
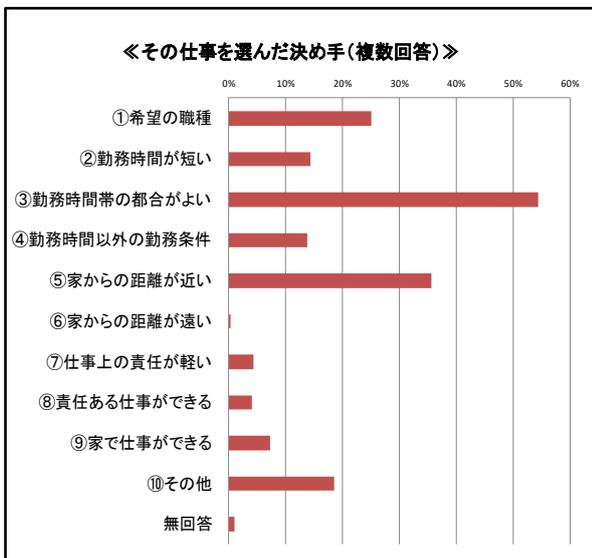
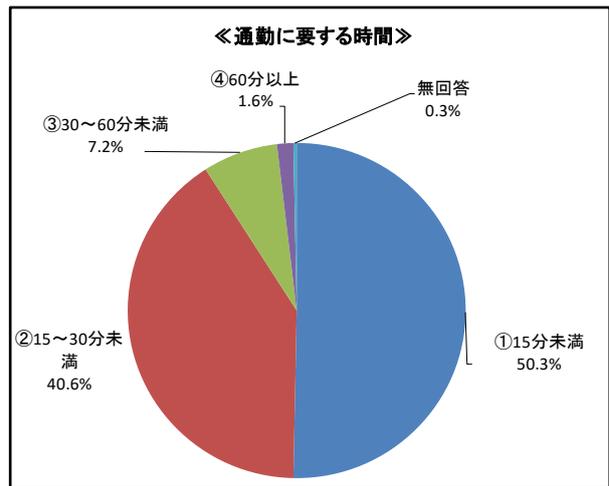
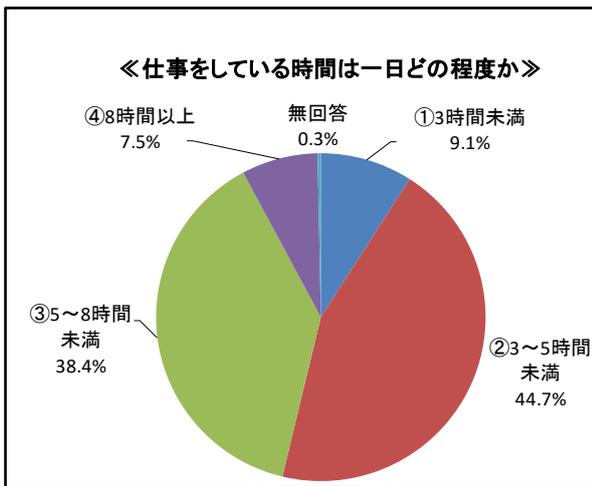
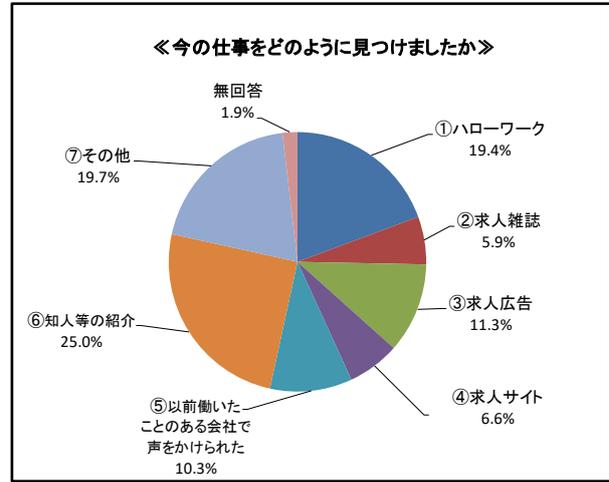
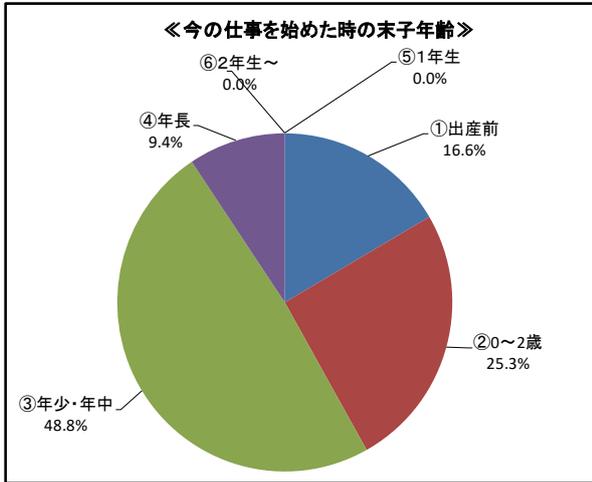


就労していない方



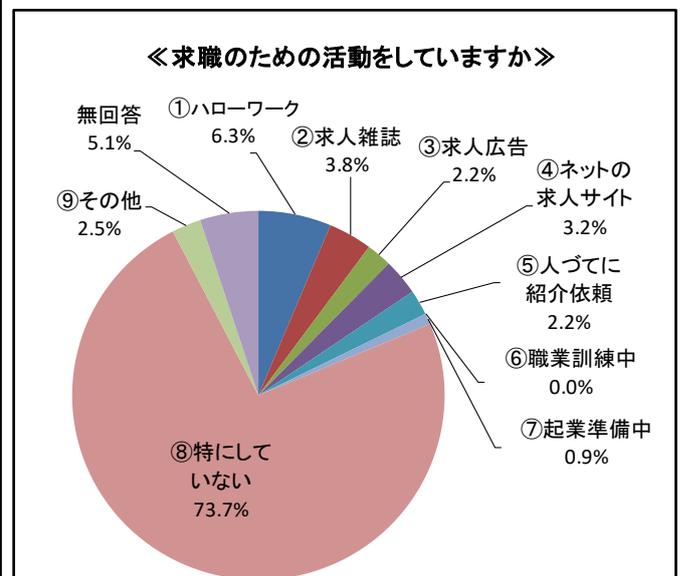
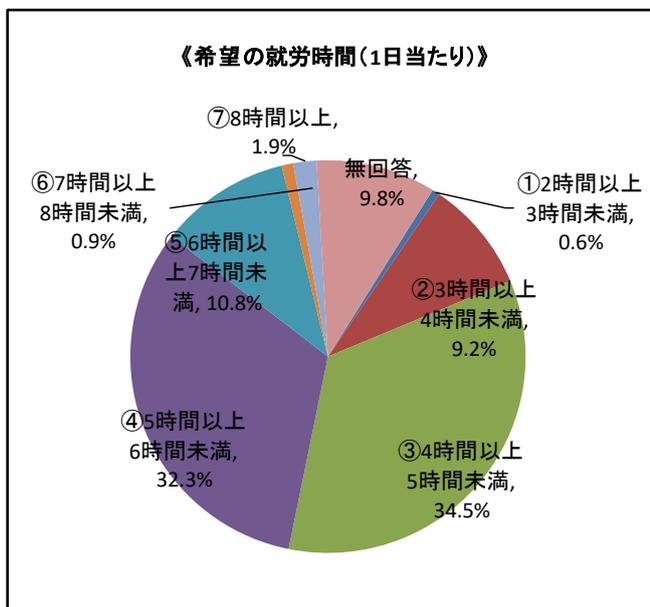
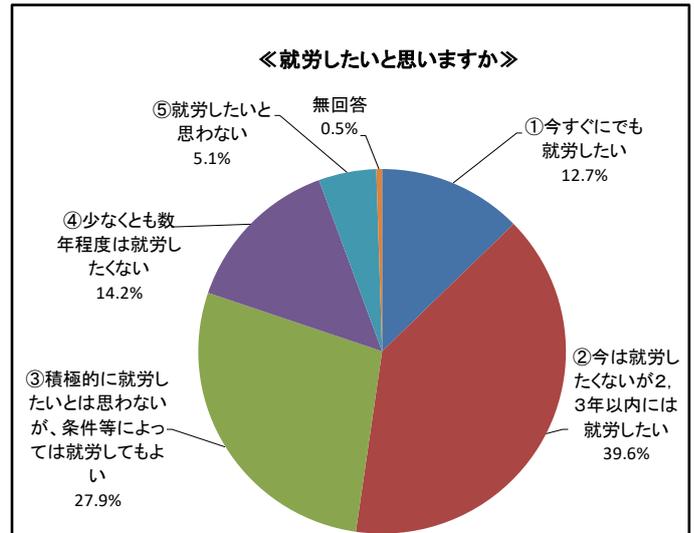
○就労している方の回答概要

- ・働き始めた時期は、末子が幼稚園在園中が半数を超えた
- ・仕事をしている時間は5時間未満が半数超、通勤時間は15分未満が半数を占めた



○就労していない方の回答概要

- ・すぐにでも、又は数年内に条件によっては就労したい者が8割程度いるのに対し、求職のための活動は特にしていない者が7割を超えていた
- ・希望する就労時間については、就労している者の実際の就労時間とほぼ同じ傾向が見られた



(3) 企業に対するヒアリング調査

ア 実施概要

- ・平成29年10月～11月及び2月に、市内22事業所に協力いただいてヒアリング調査を実施
- ・ヒアリングは、市担当者及び本調査業務の受託事業者各1名以上で実施

イ 調査結果概要

業種や事業内容等によって異なるものの、多くの事業所において子育て中の女性やすべての従業員の働きやすさを考えた様々な取組みを導入していた

- ・子育て中の女性の雇用に関し、実施している企業が多い取組み

産休・育休制度、短時間勤務制度、残業縮減キャンペーン（定時退庁日の設定）、有給休暇取得奨励、希望に合わせた勤務シフト

- ・いくつかの企業に特徴的に見られた取組み

- ・有給休暇取得制度・・・1時間単位で取得可（多くの企業では半日又は1日単位）
- ・スライドタイム・・・業務の都合に合わせて、労働時間を変えず出退勤時間をスライド

- ・子どもの病気など突発的な事情が生じた場合の対応例

- ・チーム内の他スタッフが業務を引き受け、チームとして対応
- ・LINE等を活用した代替スタッフ探し（シフト制）
- ・家族（夫及び祖父母）の理解と協力が得られるよう日頃からの関係構築を促す
- ・あらかじめ一人分の余裕を持ったシフト編成（医療系）
- ・従業員及びその家族の感染症発生情報を全て公表し、後日発症する可能性を考慮して子どもを預け先を確保しておく（医療系）

- ・業務の内容その他の状況から、直ちには導入が困難との反応が多かった取組み

- ・在宅勤務（店舗、情報管理などの理由による）
 - ・フレックスタイム（但し、スライドタイムで柔軟な対応を実現している場合もあり）
 - ・ワークシェア（但し、パートの複数雇用で事実上実現している場合もあり）
- ※介護休暇や男性の育児休業についても制度を設けている事業所は多いものの、導入後間もないところも多く、今後活用を拡げることが課題

・求人方法

- ・ほぼ全ての事業所でハローワークを活用。常時募集を出しているところが多い
- ・繁忙期前に情報誌、ウェブも併用するなど使い分け

・今後の雇用マッチングの取組みへの関わり方

- ・職場見学、説明会への参加については、必要に応じ前向きに対応するとの回答が多い
- ・インターンについては、危険を伴うなどにより対応が難しいとの回答も目立つ

・その他女性雇用マッチングに関する意見等

- ・せっかく入ったからには長く続けてもらいたいので、これから働こうとする女性たちにはぜひ、働く意思をまずはしっかり固めてきてほしい
- ・事業所としても個々の事情はできる限り考慮するので、遠慮なく相談してほしい
- ・あいさつや報告連絡相談など、社会人としての基本的なことを大切にしてほしい

ウ その他業種別に特徴的にみられた状況

○販売・飲食・サービス業（接客業）

- ・平日日中のスタッフは比較的確保しやすいが、土日や夕方以降に勤務できるスタッフの確保に苦慮している
- ・たとえ短時間でも働いてくれる人数が多いほど、ローテーションが回しやすくなるので助かる

○製造業

- ・ラインに入っただけの作業の場合が多く、各人に応じた細かな時間設定は困難、パートでも最低5時間程度の勤務を求められるところが多い
- ・来年度は大手コンビニエンスストア企業などでも新卒採用数が大幅に増加する中、地域の事業所では、パート採用を増やしたいと考えるところも多い
- ・事務系スタッフは退職者が適切なタイミングでの採用となることが多く、まれに求人が出てはすぐに決まることが多い

○医療系

- ・常時スタッフを募集している分野であり、子育て中女性が働きやすい環境を追求
- ・新卒で入るとそのまま辞めずに勤務を継続する例も多いが、有資格者であれば中途採用も容易
- ・無資格者であっても、勉強しながらの資格取得も可能で続けやすい

エ 企業で働く子育て中女性に聞いた具体例

- ・ほかでパートをしていたが将来を考え正社員として転職入社。仕事には厳しい上司だが、家庭の事情への理解があり働きやすい。勤務時間内にいかに効率よく進めるかがポイント
- ・出産で辞め、産後まもなく他にパートに出たが、子が成長し同じ部署に正社員として戻った。収入は大切。実家の協力も得て働き続ける
- ・新卒時から三度の出産を経てずっと勤務。事業所内託児所に助けられている。女性が多いが多世代のお互い様のチームワークで働きやすい

→いずれも職場の理解や家族、友人などの力を借りながら子育てと仕事を両立
金銭的な充足に加え、働きがいや社会的意義など多様な価値を働くことに見出している
様子がうかがえた

Ⅲ. 調査結果のまとめ

(1) ヒアリング及びアンケート調査結果から

・がんばる女性応援セミナー参加者とぞうさんの家での個別ヒアリング者の回答傾向には差が生じた

・自らセミナーに参加した者は、子ども中心の生活をこれまで数年間にわたり送ってきた結果、そろそろ自分のことも考えたい、子どものこと以外で他人と交流したいと考えており、今回のような自分について考えられるセミナーを待っていた、ネットワークを作りたいという感想が多く寄せられた

・一方で、個別に意見聴取をした女性たちは、現時点では子ども中心の生活を送っており、働くことや社会に出ることについては比較的後ろ向きの反応が見られたものの、将来的には働く可能性も視野に入れている者が多く見られた

・これに対し、市内の幼稚園に子どもを通わせる多くの母親が回答したと考えられるアンケート結果によれば、既に何らかの仕事に就いている、又は就業を望んでいる者が全体の9割以上を占めた

・これらを踏まえると、現在は働くことに比較的消極的な小さい子どもを持つ母親たちであっても、数年後には、働きたいと思うようになる者が増えてくることが予想される。

(2) 来年度以降の取組みの考え方

・これら調査結果を踏まえ、来年度以降の取組みにおいては、段階に応じ、次のような支援が必要と考えられる

- ① 現時点で働きたいと考えている女性の就職につながる支援
- ② いずれ働きたいと考えるようになる可能性がある女性たちが、やがて希望する職に就き、活躍の場を広げていくことができるようにしていくために、希望に応じて学び、働くことについて知り、働くために備えるための支援

・併せて、女性が多様な働き方を選択できる環境づくりに取り組む観点から、市内事業所に対しても積極的な働きかけを行い、子育て中の女性や、誰もが働きやすい環境の整備の必要性について周知を図り、取組みを支援していくことが求められる

IV. 取組みの方向性

(1) 考え方

①現時点で働きたいと考えている女性の就職につながる支援

今回の調査を通して最も多く見られた、「働きたいと思っはいるけれども具体的に就職に向けた活動をしていない」潜在的求職者

- 「空いた時間」を活用して働いてみたいと思う
- 時間等に関する多くの条件に合致する仕事に出会えば働きたい
- 「空いた時間以外の時間」へも影響を及ぼしてまでは働きたいと考えていない

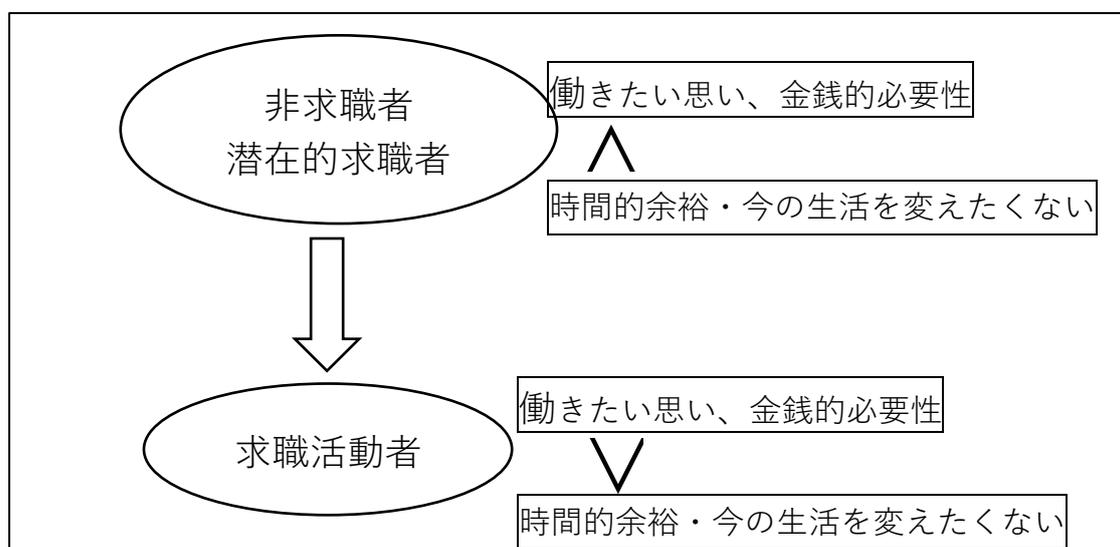
実際に働き始めれば、空いた時間以外の時間への影響が生じることもあるが、それでも働きたい!という気持ちを持っていただくきっかけを提供することによって、実際に就職を目指す「求職活動者」になる方が出てくるのではないか

②いずれ働きたいと考えるようになる可能性がある女性への働きかけ

子どもが小さい女性など、「現時点では働くことに対して意識を持っていない」非求職者

- 今は子ども中心の生活がしたい
- 子どもが大きくなったら働くかも、と漠然と思っている

自分自身の今後について考えていただくきっかけ、漠然とした将来のイメージを具体的に考えるきっかけを提供することによって、非求職者・潜在的求職者から求職活動者になる方が出てくるのではないか



(2) 取組みの内容

①未就職女性のネットワーク化

～周南ママの明日を応援する～しゅうニャンママパーク（仮称）

ア 子育て中女性たちの多様なニーズ

- ・人と話し、人と共感するきっかけがほしい
- ・楽しそうなことなら参加してみたい
- ・友だちと一緒になら行ってみたい
- ・情報はスマートフォンから入手している
- ・スマートフォンは使いこなせないがクチコミ情報が頼り

→こうした女性たちのニーズに応えるため、市内に在住する子育て中の女性たちによるコミュニティを新たに設け、子育て女性に関する情報のハブとして関係機関をつなぐ場とする

【ポイント】

- ・専用サイトを開設し、会員登録を済ませた者が閲覧できる周南子育て情報を掲載
- ・イベント、子育て中に利用しやすい施設、グルメ、子どもに関する心配事など、ターゲットに訴求する情報を幅広く掲載
- ・就職に関する情報は多くのテーマの一つとし、初めから仕事・就職への導線を主張しすぎないことで、間口を広く多くの者に関心を持ってもらうことにつなげる
- ・会員同士で双方向に口コミを共有できるコミュニティを設ける
- ・定期的に関係者に顔を合わせる懇親会を開催。オンラインだけではないリアルなつながりで関係の深化を図る

【女性にとっての就職に関する意識づけとしての活用例】

- ・ライフプランやマネープラン、子育てについて夫婦で学べる機会など、多様な講座を企画
- ・まずは問題意識を持ってもらうきっかけづくりから始め、参加者の反応を見つつ、次第に就職に役立つ多様な講座も提案していく

【関係する多様な主体を巻き込む具体的イメージ】

○企業

- ・ 求人情報提供
- ・ 働きやすい職場環境整備への働きかけ
- ・ 先輩女性従業員とのつながりづくり

※企業 PR やイベント告知、マーケティングリサーチなどに活用いただくことで、企業にとってもメリットのあるものとする

○子育て関連機関

- ・ 幼稚園…働きたい母親が働きやすい環境整備への協力依頼
- ・ 保育園…見学会、一時利用、申込に関する情報提供
- ・ ファミリーサポートセンター…利用しやすい広報
- ・ 認可外託児施設…早朝や夜に預かってくれる託児施設に関する情報収集・保護者や企業への提供

○ハローワーク、商工会議所・商工会

- ・ 仕事の探し方・適職相談
- ・ 求人情報紹介
- ・ 仕事見学会・インターン等

イ 学ぶ機会の提供

- ・ 登録者の状況、情報への反応などの状況も見ながら、就職に向けた各段階におけるセミナーを随時開催
- ・ 会場は公共施設の他、幼稚園や子育てサークルでの出張開催、子育て支援イベントでの同時開催、ハローワークでの開催などを想定。固定的な場を持たないことから、ニーズに応じて柔軟で機動的な開催が可能

【想定される講座の具体例】

○金銭的必要性に気づく

- ・ 子どもの学費や習い事などの様子を知る
- ・ ライフイベントやファミリーイベントの見通し、マネープランを考える

○家族のことを考える

- ・夫にも家族の将来の見通しを共有してもらう
- ・夫に様々な家族の在り方があること、妻が働くことは特別ではないこと、家や子どものことなどについて考えてもらう

○子どものことを考える

- ・保育所やファミリーサポートセンター、その他預け先を知る、頼り方を知る
- ・祖父母と仲良くする効用もあることに気づく
- ・年代に応じた子どもとの関係づくりの仕方を知る

○自分自身のことを考える

- ・自分の棚卸、できることを知る
- ・多様な職種があることを知る
- ・企業が求める人材像を知る
- ・スキルを身につける 等

○人間関係への不安を軽減する

- ・ビジネスでのコミュニケーションの方法を知る
- ・先輩従業員の話から実際の様子を知る

○時間的余裕がなくなることへの不安を軽減する

- ・時短のためのスマートフォン活用術
- ・時短自宅整理術

ウ 就職活動の支援

○仕事の探し方支援

- ・ハローワーク活用術
- ・職務経歴書や自己PRの書き方

○職場見学やインターン実施

○個別相談

子育て、就職その他の悩みについて、希望に応じ個別対応

(3) 運営体制～「(仮称) 周南市女性雇用対策連絡会議」の設置

○商工会議所・商工会【企業との橋渡し】

企業とのネットワークを生かし、企業の女性従業員の状況把握や職場環境整備に関する企業への情報提供など、企業との橋渡し役を担う

○ハローワーク【就職活動支援】

女性求職者に対するマザーズコーナー整備や出張相談など多様なサービスを実施しており、引き続き女性就職に係る支援を行う

○徳山大学【取組み全体にかかる助言】

今回調査に当たって協力いただくなど、既に状況を熟知しており、引き続き取組み全体に係る助言を行う

○女性活動支援団体【女性への支援協力】

女性のネットワーク化、女性を対象とした講座開催等を通じ、就職に向けた意識づけ等につなげる支援を行う

○周南市【多様な施策との連携・運営事務局】

保育所その他子育て環境の整備に関する多様な施策を実施する部局間の連携により取組みを一体的に推進するとともに、本件連絡会議の運営事務局を担う

(4) 今後の見通し

関係機関への協力依頼、サイト開設、会員募集等準備期間を要することから、概ね3年後の本格運用を目指して準備を実施

30年度 仕組み作り

31年度 試行

32年度 取組開始

平成30年3月31日 企画及び調査実施： ライフスタイル協同組合
--